

総括質疑

3月定例会では、6人の議員が会派を代表して令和8年度予算に対する総括質疑を行いました。

施政方針及び予算編成について



いせはら 為成会
大山 学

Q 令和8年度は初めて400億円を超えた一般会計予算となったが、市長の政治姿勢と財政運営に対する見解を伺う。

A 【市長】 令和8年度は、重要な転換期であり、これまで培ってきた歴史と文化を大切にしながら、未来を見据えた持続可能なまちづくりを強力に推進していく必要がある。市民の暮らしを取り巻く環境が厳しさを増している中、未来へ向けた投資的な事業を計画的に展開し、持続的な行政サービスを提供していくため、実行力のあるかじ取りが求められている。市民生活の安定とまちの持続可能性を高めるため、未来へつなぐ予算編成に取り組んだ。

単に現在の財政状況に目を向けるだけでなく、将来の伊勢原市が持続的に発展するため、計画的な投資を行い、同時に財政の健全性を維持して

く経営的な視点に立った予算編成作業であったと認識している。

本市の将来都市像である「暮らしやすさ実感都市伊勢原」の実現に向けて責任ある財政運営の推進に努めていきたいと考えている。

都市基盤整備について



志政会
小沼 富夫

Q 伊勢原駅北口市街地整備、新たな産業系用地の創出、総合車両所移転関連整備など、大型事業が同時に進行している。これらの事業は将来への投資であると理解しているが、それぞれの費用対効果をどのように評価しているのか伺う。

A 【市長】 伊勢原駅北口市街地整備事業では、都市基盤整備としての必要性や土地の活用およびにぎわい創出、これらによる中長期的な経済波及効果など、さまざまな観点から捉えることができると考える。具体的には、市の玄関口として、中心市街地を形成するこ



総括質疑とは、本会議で市長等（執行機関）に対し、一般会計予算、特別会計予算及び公営企業会計予算について総括的に疑義を問うことをいいます。予算や決算の議案内容は膨大なため、総括質疑の後、3つの常任委員会で所管ごとに、より具体的な審査を行っています。

とにより、市のイメージアップやにぎわい創出につながるとともに、都市計画道路や駅前広場の整備によって交通結節点機能が向上する。また、駅前空間の高度利用による居住者の増加や、観光などによる交流人口の増加

期待している。税収については、主に居住者や建物面積の増加などに伴う税収増を見込んでおり、事業計画の精査を進める中で、具体的な効果について引き続き検討を進めていきたいと考えている。

インフレ時代の市政運営について



いせはら 未来会議
森尾 武史

Q 現在のインフレが続くことを前提とした財政運営の必要性について伺う。

A 【市長】 本市の課題でもある公共施設の老朽化への対応やインフラの更新等を着実に進めていくためには、中長期的な投資戦略を持つて計画的に適切なタイミングで実施していくことが重要と考

える。一方、歳入面では、個人市民税は増収傾向が続くと見込まれるものの、法人市民税は減となるなど、歳入の伸びが歳出の伸びに追いついていない。そのため、基金を積み立て、財政負担の平準化を図りながら、計画的に実施していくことも重要である。

今回の予算編成では、これまでと同じ事業を実施するにはこれまで以上に予算が必要になるとの認識の下、事業スケジュールの見直しや、緊急度を判断し、公共施設全体で、優先順位づけする等限られた財源の範囲で工夫しながらインフラ整備や公共施設の保全に努めるとともに、一定の基金積み立てについても並行して予算配分を行った。

財政の持続可能性と予算編成の基本姿勢について



公明党いせはら
今野 康敏

Q 市長が掲げる未来へつなぐ予算において、将来的な税収減と社会保障費増の大きな要因に対して

市長が描いている市政経営の戦略について伺う。

大型開発と子育て・教育・福祉施策について



日本共産党
川添 康大

Q 令和8年度予算は、土木費が前年度比から増となる一方で、教育費は減となっている。来年度は都市開発優先の政治判断を行ったとの認識でよいのか伺う。

A 【市長】 教育費予算の減については、図書館・子ども科学館の屋上防水・外壁改修工事の完了や国の補正予算を活用し、令和8年度予定の改修工事を前倒しした小中学校校舎等の改修事業費の減などによるものであり、いずれも事業進捗に伴うものと捉えている。第6次総合計画で掲げる将来都市像の実現に向けて、市民が安心して暮らすことができるよう経営的な視点から事務事業の見直しに取り組み、未来へつなぐ予算として編成した。都市基盤などの投資は、本市の魅力向上、将来的な定住促進や地域経済の活性化へつながる大変重要な取り組みである。

業の見直しに取り組みとのことだが、これまでの見直し手法と比べて具体的にどのような点が異なるのか伺う。

A 【市長】 長期化する物価高騰の影響を受ける中で、総合計画に掲げる将来都市像を実現するためには、財政の健全化と施策推進のバランスをしっかりと見極める必要がある。これまでも業務の効率化やスリム化による歳出削減のほか、産業基盤の創出による税源涵養などに取り組んできたが、これに加えて、発想クリン課を中心に、稼働率に対する意識の醸成等にも努め、新たな歳入確保策にも取り組んだ。具体的には、新規事業の立案や既存事業の継続に当たり、企業版ふるさ

Q 経営的視点から事務事業



進風会
荻野 貴文

経営的視点による予算編成について

経営的視点による予算編成について

会計名	予算額	対前年度伸率(%)	
一般会計	402億1,700万円	2.0	
特別会計	国民健康保険事業	90億9,700万円	-0.8
	用地取得事業	9億4,700万円	56.8
	介護保険事業	87億2,100万円	2.9
	後期高齢者医療事業	21億5,200万円	13.5
公営企業会計	公共下水道事業	57億6,100万円	-1.3

本会議はインターネット中継でもご覧いただけます。

パソコンのほか、スマートフォン、タブレットでも、ライブ配信(生中継)と録画配信をしています。



市議会の詳細はHPをCheck!

伊勢原市議会

検索

と納税やクラウドファンディングの活用可否について、管理部門だけでなく予算要求を行う各所属においても経営的な視点を持って事務事業の予算化に努めている。